木ノ下裕一×杉原邦生『黒塚』対談

対談日｜2013/4/15
場所｜急な坂スタジオ
聞き手｜加藤弓奈(急な坂スタジオディレクター)

加藤｜今回『黒塚』という作品を選んだのはなぜですか

木ノ下｜そもそも『黒塚』と言い出したのは邦生さんで。

杉原｜これぱっかりは直感なんです。次は舞踊をやってみたいとか、前回の『義経千本桜』[1]は大人数だったから少ない人数で、とは先生(木ノ下)と話してましたけど

木ノ下｜僕としては、『黒塚』ってどうやっても地味な演目なのに、邦生さんなら絶対違うアイディアが出てくるかもしれへんっていう。その明暗、コントラストみたいなものでとりあえずいけるかもって思ったんです。もちろん舞踊劇がやりたい、変化物をやりたい、あと猿之助さんの襲名披露狂言の一つとしてメジャーになったこととか…そんな諸々がパズルのように合って、いいね! となったんです。

加藤｜では実際にお稽古に入って『黒塚』はどんな手応えですか。今生きている私たちの日常と、歌舞伎の作品のなかで描かれていることとがリンクするか、あるいはリンクしないかということを考えながら監修だったり演出をしていると思うんですけど

木ノ下｜僕は古典を現代化することって、単に新解釈出来てるかということだけじゃなくて、作品からアーティストの顔や問題意識がみえるっていうことだと思うんです。今回の『黒塚』はバランスよくその話が出来ている気がするし、やっていて楽しい。そういう意味ではやっぱりね…一番のパートナーですよね。

杉原｜なんでちょっと照れたの?(笑)
僕は『黒塚』って舞踊と言っても強く劇性/ドラマ性を意識した作品だと思うんです。でも歌舞伎だと僧侶達が、お婆さんを裏切って鬼に変身させるためだけの存在になってしまってるのが気になってて。

木ノ下｜歌舞伎のスターシステムではそれで成立してしまうけどね。

杉原｜うん。でも僕は現代劇の演出家だから、僧侶たちの行動にもすべてに理由や根拠があるはずだし、もちろん感情もある。そこをきちんと見せたいんです。あと、そういう意味で今回は歌舞伎の形式をドラマ的な側面から組み立て直そうとしているから、手法的にも一度解体しないとダメだなって思っていて。ということは舞踊劇という概念も一度解体して考えないと、キノカブ(木ノ下歌舞伎)の『黒塚』として立ち上がってこないだろうし…。でも、最終的に「これは歌舞伎の舞踊劇だ」とお客さんが思える作品になったらめちゃくちゃ面白くなるんじゃないかな。

木ノ下｜恒例の完コピ稽古[2]もやってよかったですよね。

杉原｜そうそう。舞踊シーンを完全コピーして(歌舞伎舞踊を)踊れていない身体っていうのは、それはそれで面白くて。歌舞伎俳優が長年培ってきた伝承された身体と、その訓練をしていない俳優の身体との間にはすごい距離があるから、そこは前提要素として使えるかなと。あと実際に俳優の身体を通して立ち上がってくるものを見ないと判断できないことが、キノカブではいっぱいあるんですよ。

加藤｜その意味でも今回、急な坂スタジオのプロデュースで長めに劇場でクリエーションが出来る時間を設定して、中でぐちゃぐちゃやって欲しいということが想いとしてあるんですけど、その辺りはどのように作用しそうですか

杉原｜十六夜スタジオ周辺の猥雑な雰囲気というか、それが『黒塚』に合うんじゃないかなって感じていたので、すごくプラスに作用すると思っています! なんだか謎でしょ? あの空間って。ミステリアスな感じで。それも含めて、作品にとっても創作の場としてもいいんじゃないかな。

木ノ下｜どの作品にも限らず邦生さんって空間性が強いから、入ってからバッと変えたりするんです。その構築して崩して、の作業をたっぷりできそうですね。

杉原｜楽しみだよね～2週間半も入れるなんて!

加藤｜これから1年半位お二人でタッグを組んで作品をつくることが重なるということですけど、その先で挑戦してみたいことはありますか

杉原｜僕らの最終目標は歌舞伎座でやるということですから、歌舞伎俳優と一緒に。そのときは「木ノ下歌舞伎」としてではないと思うけど。キノカブ的には『木ノ下大歌舞伎』をやりたいんですよ。劇場を2週間位借り切って、再演と新作含めて何演目かやるんです。

木ノ下｜そうそう! 2016年に木ノ下歌舞伎が10周年なのでそこを目標にしてます。あといつか「仮名手本忠臣蔵」を通しでやりたい! これが具体的な二大目標ですね。これまで木ノ下歌舞伎で演出家として関わってくれた方々も新しい演出家も、もっと巻き込んで、ムーブメントにしていけたら嬉しい。

加藤｜それ観たいです!

木ノ下｜あと日本の伝統の演目を現代化するっていうのが、そう特殊なことじゃなくなって、木ノ下歌舞伎より断然面白い、古典を現代化する劇団とか出てきたらもう悔いないですよね。「打倒・木ノ下歌舞伎」みたいになったら嬉しい。で、木ノ下歌舞伎なんて古いとか言われて…

杉原｜そうなったら僕らは歌舞伎座に行こうっていう(笑)

木ノ下｜うん、それが出来たら小劇場も盛り上がっていいよね。でもそこまでが茨の道ですけど。うーんその前に胃潰瘍になるか、円形脱毛症になるか、血尿出すか…

杉原｜先生、長生きしてくださいね(笑)

▶1｜[義経千本桜]2010年より3ヶ年継続でおこなった滞在制作企画「京都×横浜プロジェクトの締めくくり年に上演 された記念碑的公演。総合演出に多田淳之介、演出は白神ももこ/杉原邦生を加えた3名で担当。再終幕 は共同で演出が行われ、総勢22名の俳優が出演する4時間半以上の大作となった。

▶2｜完コピ稽古:歌舞伎俳優が演じる舞台映像を手本に、動きから台詞の抑揚まで俳優がコピーしていく稽古方法。

［杉原邦生の『黒塚』舞台美術コラム］
スタートライン

どこを作品のスタートラインにするかってことは、アーティストそれぞれ違うと思うんですけど、実際に作品づくりをするとき、稽古場で本番に向けて作品を立ち上げていこうとするとき、やっぱり、僕は、空間が決まらないと本当の意味でスタートできない感じが強くて、それで、毎回どこがスタートラインなのかってことを決める、つまり、その作品における〈劇空間〉を決めるのに一番時間を費やすんですけど、今回の十六夜吉田町スタジオって空間は、劇場なんだけどいわゆる〈劇場〉って感じはしなくて、そこがエキサイティング且つ難しいところでもあって、そもそも立地条件とか周りの環境とか踏まえた上での〈劇場空間〉だし、いつもそこをベースに空間を考えるんですけど、今回はそのことがかなり重要なポイントだと思っていて、だからこそ、この横浜の関内にある十六夜吉田町スタジオでしか体験できない作品になる、そういう予感がしてるし、ヤバい感じの『黒塚』が出来上がるんじゃないかなって、ビンビン感じてます。スタートラインと言えば、海援隊の「スタートライン」は僕の大好きな曲です。

東北地方に伝わる鬼女伝説に想を得た
近代歌舞伎舞踊劇の金字塔を、
新たな視線で描き出すスペクタクル舞踊劇!

あらすじ…
人里離れた安達ケ原(現・福島県内)のあばら家に
岩手と呼ばれる老婆が暮らしていた。
そこに通りかかった阿闍梨祐慶ら三人の旅僧は、
日が暮れたので老婆に一晩の宿を乞う。
老婆は自分の罪深さを彼らに語るが、
祐慶はどんな人間でも仏教に帰依すれば成仏できると諭す。
喜んだ老婆は「奥の寝室はけっして覗かないように」と言い残し、
薪を拾うため山に出かけるが…。

『黒塚』とは?
昭和14年に初代市川猿翁によって創作・初演された
近代の新作舞踊劇の金字塔。
東北地方に伝わる鬼女伝説に取材した能「黒塚(安達原)」が原作。
老婆と旅の僧の出会う芝居仕立ての〈上の段〉、僧に諭され、
その嬉しさを老婆が舞で表現する〈中の段〉、
信頼していた僧に裏切られた怒りから
鬼女の正体を現し襲い掛かる〈下の段〉と、起伏に富んだ〈三段〉からなる。

〈日時｜全10ステージ〉
5/24(金) 19:30｜25(土) 19:30｜26(日) 15:00｜27(月) 19:30｜28(火) 19:30
29(水) 19:30｜30(木) 休演日｜31(金) 19:30｜6/1(土) 14:00, 18:00｜2(日) 15:00
•受付開始、開場は開演の15分前より行います。
•未就学児童の入場はお断りさせていただきます。•上演時間は約90分を予定しております。

〈関連企画〉
「黒塚」完全コピー稽古Ust配信!▶木ノ下歌舞伎恒例の稽古方法、歌舞伎版 完全コピー稽古の完成形をUST配信いたします。 配信日:5月5日[日] 10:00～/22:00～ 2回配信
木ノ下裕一の音声ガイダンス配信!(全3回)▶これを聞いたら『黒塚』がもっとよく分かる!?
木ノ下裕一によるオリジナル音声ガイダンスを配信いたします。
配信日:5月8日[水]、15日[水]、22日[水]
•いずれも詳細は急な坂スタジオwebサイトにてご確認ください。
★木ノ下歌舞伎オフィシャルTwitter[@KINOSHITAkabuki]、facebookページ[facebook.com/kinoshitakabuki]では、『黒塚』最新情報を配信中!!
アフタートーク▶毎公演終演後に、木ノ下歌舞伎メンバーによるアフタートークを開催いたします。

〈料金〉
前売・当日共 2,500円
〈チケット取扱い・お問合せ〉
急な坂スタジオ http://kyunasaka.jp Tel:045-250-5388 Mail:toiawase@kyunasaka.jp

〈会場〉
十六夜吉田町スタジオ 〒231-0041 神奈川県横浜市中区吉田町4-9 Tel:045-261-9830
〈アクセス〉
JR根岸線 関内駅 北口徒歩5分、横浜市営地下鉄 関内駅 6番出口(イセザキ・モール方面)徒歩5分
みなとみらい線 馬車道駅5番出口徒歩8分

〈協力〉
害獣芝居、krei inc.、KUNIO、台湾岡崎藝術座、東京デスロック、Baobab、プリッシマ
〈主催・企画・制作〉
急な坂スタジオ

編集｜関 亜弓(木ノ下歌舞伎) デザイン｜川村格夫 写真｜鈴木竜一朗
発行日｜(納品日)
発行｜急な坂スタジオ

木ノ下歌舞伎 official website
http://kinoshita-kabuki.org

CoRich舞台芸術まつり! 2013春 最終選考作品

急な坂スタジオプロデュース
木ノ下歌舞伎
黒塚 クロヅカ
KUROZUKA

KUBAN ATIHSONIK
2013年5月24日(金)—6月2日(日)
十六夜吉田町スタジオ［横浜・関内］
急な坂スタジオプロデュース
木ノ下歌舞伎
黒塚
クロヅカ
AMUZORUK
演出・美術 ― 杉原邦生
監修・補綴 ― 木ノ下裕一
出演 ― 大柿友哉、北尾亘、武谷公雄、夏目慎也、福原冠
木ノ下裕一
杉原邦生